

## スーパー・メガリージョン構想検討会（第6回）議事概要

- 1 日 時 平成30年2月1日（木）10：00～12：00
- 2 場 所 中央合同庁舎2号館 講堂
- 3 出席委員 奥野顧問、家田座長、井口委員、加藤委員、小林委員、真田委員、清野委員、寺島委員、藤原委員、森川委員、八木委員、山名委員代理 小川氏
- 4 議事
  - (1) 開会
  - (2) 議事
    - ア 事務局より資料2について説明。  
家田座長より、次回以降は各委員から論点1に係る意見を発言する機会を設ける旨補足があった。
    - イ (株)三菱ケミカルホールディングス 小林喜光取締役会長より、資料3「KAITEKI なスーパー・メガリージョンをめざして」について発表が行われた。以下、主な質疑（次項以下、同じ）。
      - ・スーパー・メガリージョン構想（以下、「SMR」という。）を日本の成長コアにするため、リニア中間駅に居住し、都市に通勤しやすくなることができればと期待している。愛知県の調査結果では、単身赴任者のうち、4割弱がリニアで名古屋から通うという意向も見られた。地方における居住・ビジネススタイルについて、具体的なイメージがあれば伺いたい。
      - ・(小林会長)遠距離通勤は、個人のスタミナと仕事の質が問題。可能な人もいるだろうが、グローバルな戦いが激しい時代に、効率性を重んじれば、やはり都心に集中せざるを得ないのでは。通勤コストの問題もあり現実的には難しいと思う。
      - ・愛知県の人口は増えているが、多くの県民が東京に転出し、製造業で他県から転入しているのが実態。Society5.0の世界を作る人材が東京に集中し、人口がアンバランスな現状において、SMR全体としてどのような対策を考えればよいか。
      - ・(小林会長)東京への集中が進む現状で、これを前提に将来スキームを考えるのか、分散化という逆エネルギーをかけるのかという分岐点にきているが、この流れに歯止めを掛けるのは難しいと思う。
      - ・世界で活躍する小林会長の視点では、SMRについてどのような範囲と考えるか。
      - ・(小林会長)SMRを沖縄から北海道まで全体に線を張る設計としておかなければ、より都市化や集約化が加速してしまう気もする。
      - ・資料3にある「Digital Dictatorship」の時代へという時代観については共感。Facebook、Amazon等のような巨大な資産価値を持つ企業の登場により、格差も生まれており、一番真剣に考えるべきテーマである。また、そういう時代を迎える中で、ものづくり国家日本としても昨年の技能オリンピックで9位に落ちるなど、転換点を迎えており、どうしてもものを残していくか構想力が重要である。SMRの理念について示唆いただきたい。
      - ・(小林会長)3Dプリンター等により、ソフトウェアがあれば手元でものづくりができる等、通商・生産そのものが変わってくることも考えなければならない。また、ご指摘の美容・料理・宮大工等の文化で語る技能は、大学という形にこだわらず、専門現場力を育む教育機関の一層の充実が必要ではないか。格差が相対的に小さいという日本の特長をどう大切にし、社会の安定を保っていくかが非常に重要。GDPや時価総額を追い求めるよりは、少ない格差の方が人々の暮らしとして良いという考え方はあるものの、企業家としては、投資家の約半分が外国人で、コーポレート・ガバナンスも一種欧米化しているという現実のもと、せめぎ合いの中にいるというのが率直な実感。
      - ・ご指摘の通り、これから都市が生き残るためにはラストワンマイルの効率性を良くしていかなければならない。また、「Digital Dictatorship」の時代に対抗して、行ってみないと楽しめないようなリアルな側面を将来どこまで持てるのか。これらについて展望を伺いたい。
      - ・(小林会長)ラストワンマイルを支えるツールは、物理的に軽量化が必要。そのための炭素繊維やプラスチック加工等で日本は強い。また、植物工場のような農業のシステム化等でも日本は強みを発揮できるのではないか。

- ・ AI・IoT に係る環境整備の観点では、データを共有するプラットフォームをつくり、民間企業がそれを利用してイノベーションに繋げることが重要で、関西圏では健康・医療分野で働きかけている。プラットフォームについて、三大都市圏の各地域がそれぞれ特色あるものをつくるのが良いか、または全体でのプラットフォームをつくったほうが良いか。
  - ・ (小林会長) プラットフォームとして共有するのか分担するのかは分野によって異なると思う。
  - ・ 世界に範を示す SMR として、日本と他地域との格差を生むのではなく、日本全体を牽引するという発想に共感する。都市への人口集中に対する地方の役割についてどう考えるか。あるいは地方に人を留めさせる観点からも考えを伺いたい。
  - ・ (小林会長) 地方と都市を空間的にどう考えるか、農村と都市をどうつなぐかは地域活性化、地方創生等においても重要な点。国土の再構築という意味で、地方の集約等、ネガティブな要素も含んだ共通認識をつくっていかなければならない。
  - ・ 多様化している国土の自然環境がバイオケミストリーといった新たな産業の芽になるような可能性について伺いたい。
  - ・ (小林会長) 四季がある日本は自然環境に恵まれている。バイオケミストリーの中では、ミューズ細胞等の再生医療分野は、日本のリーダーシップを期待できる。日本にはヘルスケア関連データも豊富に蓄積されており、それを如何に共有できるかも重要になる。
  - ・ 日本と海外における技術への技術社会観や安全観の考え方がどう違うか見解を伺いたい。
  - ・ (小林会長) 日本は技術の捉え方が非常に固定化され、マイナンバーの普及等の阻害要因にもなっている。そうした誤ったこだわりの文化は打破していかなければならない。
- ウ 岡谷鋼機(株) 岡谷篤一取締役社長より、資料4「リニア中央新幹線の開通に伴うスーパー・メガリージョン形成と愛知/名古屋地区への影響」について発表があった。以下、主な質疑(次項以下、同じ)。
- ・ SMR により東京から名古屋に人を移すための考えを教えてください。
  - ・ (岡谷社長) 共働き、介護等家族の事情もあるが、ITの活用等で東京勤務200名のうち、20~30人は移せるのではないか。東京勤務者の約半分は名古屋から採用しているので、名古屋勤務になれば総じて喜ぶと思う。
  - ・ 博物館数の統計資料について、世界各国では美術の面などから国や都市を立て直すということが行われている。
  - ・ 関西ではこの4月から関空・伊丹・神戸の3空港の一体運用が始まる。SMR形成後の関空・羽田等も含めた空港のあり方や関西圏と中部圏との連携について伺いたい。
  - ・ インバウンドが急増する中、顕著な伸びを見せるのは航空需要であり、首都圏以外の空港が受け皿になれば、日本全体としてのメリットは大きい。特に、中部国際空港が活躍してくれることは国益上非常にメリットが大きいと考えるが、名古屋としてリニア開業に合わせてどんなことをすべきと考えるか。
  - ・ (岡谷社長) 中部国際空港については、東京と大阪の真ん中で非常に利便性が高い。空港の連携については、ソフトの取組と合わせて、三大都市圏が一緒に発展できればいいと思う。
  - ・ 現在、名古屋から中津川・飯田・甲府まで4~5時間かかるところが30分で行けるようになり、この中間駅インパクトへの相関をどう視界に入れればよいか伺いたい。リニア中央新幹線により東海道新幹線のこだま増発の可能性もある中、静岡との関連性も含めて全体で構想に入れなければならないということも共有したい。また、日本でビジネス展開する台湾人の多くは、東京より土地代、家賃が安いという理由で、大阪にマンションを持っているという話を聞いた。このギャップはSMRを描く上で重要となる。生活コストのギャップを正確に認識し、体系的なデータを作る必要がある。
  - ・ (岡谷社長) リニア中間駅への影響について費用対効果から見て考えなければいけない。
  - ・ SMRの効果を全国にどう波及させていくかが大きなテーマであり、北陸や東北も繋ぐものになればと思うが、広域的に波及していくためにはどうしたらいいと思うか。
  - ・ (岡谷社長) 民間団体では東海地域といったブロック内で関わりを深める傾向があるが、その境を跨ぐとバランスが難しい部分もある。また、中部圏は、食べるにも住むにも恵まれている一方で、観光誘致の面では遅れていたが、行政を含めて少しずつ変わってきている。
- エ 事務局より、次回について、2月27日の開催が周知された後、閉会となった。